



Title	生徒の意見をきいてみる
Author(s)	三浦, 隆宏
Citation	臨床哲学のメチエ. 2003, 11, p. 19-19
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/9384
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka



生徒の意見を立てる
担当みうら

五月二十八日(火)

生徒の意見をきいてみる

三浦隆宏

中間考査(5/20 - 24)のため、一週間あいたこと也有って、このあたりでいちど「生徒の意見を聴いてみたい」と思い、おこなった授業。5限目で「これまでについて」を振りかえり、6限目では「これからについて」生徒の要望を聴こうとした。

「さあみんな、意見を言ってごらん」と言ったところで、元気な返事が返ってくるわけではないことは、これまでの経過から学習していたので、アンケート用紙にまず記入してもらったうえで、それをもとにして私と生徒とのあいだで言葉のやりとりをしようという作戦をとった。「いちばん印象に残った授業」では、神戸ファッショング美術館の百々(もも)さんの授業と、理学療法士の玉地さんの授業を挙げる生徒が多かったが、前者は百々さんの名前とその風貌が、また、後者は「車いすに乗った」ということよりも、ただ単に学校の外をうろちょろできたというのと、その理由だろうとも思う。

授業の感想として、「英語とかよりぜったいいい」「けっこう話したりもできておもしろいと思う」「ゲストが多いのが良い」という好意的なものもあれば、「難しい」「ぜんぜん出会えんかった。もっとおもしろくしてほしい&話ばっかりはイヤ!」「ねむくなる」「しづかでしんどい、もっとうごいていろいろしたい。しゃべっている時間がながい」「思ってた感じと違うかった。もっとわかい人とか色々出会いたい」という、なかなか耳が痛いものも言ってくれた。(残念ながら、この素直な生徒の意見を契機に、それ以後の授業がよりよく改善されたかどうかは心もとない。)

また、ちょうど5/17の全体会で、福井高校での取り組みについて報告する機会があり、そのときの「映像資料」としてまとめた、過去5回分の撮影ビデオを生徒に見てもらったのだが、これが大不評。あわせて、さきのアンケートにおいても「ビデオいらん」「ビデオさつえいをやめてほしいッス」など、それまでに授業の風景をビデオ撮影していたことにたいする不満を表明する生徒もいた。(なお、ビデオ撮影にかんしては、最初の授業の日に「こちら側の勉強のために必要である」旨を本間さんが説明し、いちおう 生徒の承諾を得た ということになっていた。)

私じしん、ビデオ撮影は不要だと思っていたので、さっそくその週の分科会でビデオ撮影の中止を提案したのだが、「この授業をより良くしていくための材料として必要」とのつよい異論もあって、話しあいは紛糾する始末。結局、6/4に「ビデオ撮影についての確認」をあらためて生徒にとり、とりあえず 授業担当者のみを撮影する(つまり、生徒の姿は写さない) ということでいちおう決着したのだが、さきの分科会において私は、かなり感情の揺らいだ姿をメンバーに見せてしまったこともあって、このあたりのことは、個人的にあまり思い出したくない出来事である。

(みうらたかひろ)